

回
角
文

[illegible][illegible][illegible][illegible][illegible]

思ひ起せば本日十二月十九日は我等の晩飯後、田四十七士の如く結成に多大なるインスピレーションを感じて入たる。播州赤穂藩士、野郎内匠頭が江戸城をぬける即ちの夜、事件により即日切腹となり、一丁半五郎の死を討さんと大石内蔵助ら四十七名の志士は土下駄をはき、江戸城に討ち入りする比の血を取った、いふゆる、中臣蔵として知られる歴史的事実である。この新劇を事件にいち早く反応したのは、その夜のたけなわであった。日戦後の翌年の公演には元禄十六年（一七〇三）の事、四十七名の志士が幕府の命により切腹してからわずかに十日後のことであつた。女座はたったの三日間で中止されたが、これにこるむいと多く徳川時代だけでも百六十余の間に百二十本以上の戯曲が上演された。なかでも有名なのは坂崎三平の巨作、ニムロ一の歴史上の大事件は、中臣蔵といふばあるようになったのである。中臣蔵の四十七名並びに大石内蔵助の被せられたおびと、今では中臣蔵を演じる者があつたといふ。

